

京都のお金の事情

第1話 財政再生団体への転落を回避するために



京都市は昔から、他の政令指定都市より税収が少なく、裕福ではありません。それでも、市民生活を豊かにするため、長年さまざまな取り組みを行ってきました。

これまで：

子どもを保育園に預けないと仕事に復帰できない！

大雨でまちが浸水したら！

それは困りますよね！しっかりと対応します！

市民の命と暮らしを守るため、何とかやりくりし、全国トップ水準のサービスを実施してきましたが、そこにコロナの影響が！

このままではお金が足りず、まちづくりが続けられない！

どうしてこんなこと？

これまで

1 財政が厳しい中でも充実した行政サービスを維持

市民一人当たりの市税収入が他都市より少ない中、全国トップ水準の福祉・医療・教育・子育て支援などを実施。その水準を維持するため、職員数の削減や事業の見直しなどの行財政改革を行ってきました。

【具体的な成果など】

- ・保育所など待機児童が7年連続ゼロ
- ・大雨への浸水対策済み面積割合が全国トップ水準（市91%、全国58%）
- ・高齢者福祉施設は平成20年度からの10年で倍増（324→674カ所）など

2 毎年の支出が収入を上回る不均衡な財政状況が続く

国からの地方交付税が大幅に削減され、収入が伸び悩む中、高齢化による社会福祉関連経費などの支出が増加。宿泊税の導入など税収増の取り組みや行財政改革を実施してもなお、支出が収入を上回る状況が続いています。

不足しているお金はどうしてるの？

将来の借金返済のための積立金である公債償還基金などを取り崩し、将来世代へ負担を先送りしている状態です。

わが市

3 新型コロナウイルスの影響

コロナによる急激な景気悪化により、2年度の市税収入は過去最大の減収見込み。また、社会福祉関連経費などが一層増加。今後、毎年度500億円もの財源不足が見込まれています。

このままだとどうなるんだ？

最悪の場合、8年度は財政再生団体になり、国の関与を受け、市独自の取り組みはできなくなり、また、最低限の行政サービスしか実施できず、税金やさまざまな料金が一気に上がります。

4 今後の改革の視点

最悪の事態を回避し、明るい未来を展望

- ①暮らしやすく、魅力・活力あるまちへ
- ②真に必要な施策を持続可能にするための事業見直し
- ③投資事業の選択と集中
- ④公共施設の適正管理・受益者負担の適正化
- ⑤一般会計と特別会計等の連結
- ⑥組織体制の適正化

●国民健康保険料3割値上げ
●保育料4割値上げ
●敬老乗車証制度の廃止 など

●暮らしやすく、魅力・活力あるまちへ
若者や企業の定着を図り、支え手を増やすことで税収増につなげ、全ての世代が暮らしやすいまちに。

●若者・子育て世代の定住促進
●景観の保全と活力あるまちづくりの両立 など

●真に必要な施策を持続可能にするための事業見直し
市独自の手厚いサービスや補助金・イベントの在り方を点検・見直し。

●敬老乗車証制度の在り方の検討
●市主催の催しを休止・公費負担ゼロ など

問合せ 財政課 ☎222・3290 FAX222・3283

③ 投資事業の選択と集中

全ての投資事業について、費用対効果や緊急性を検証・見直し。

- 無電柱化事業の延期
- 安全・防災対策に関するものは除く
- 横大路運動公園整備の延期 など

④ 公共施設の適正管理・受益者負担の適正化

必要なコストを示した上で、施設の統廃合や利用者負担の見直しを検討。また、民間活力の導入などによりコストを圧縮。

- 施設使用料の改定
- 市営住宅の家賃・運営の在り方の見直し など

⑤ 一般会計と特別会計等の連結

上下水道局等の公営企業なども含めた全会計で財源確保を検討。

⑥ 組織体制の適正化

業務の効率化・委託化・民営化などにより、職員数を削減。また、働き方改革、デジタル技術の導入により時間外勤務を縮減し、人件費を圧縮。

- 臨時的な人件費の抑制 など

コロナで大変なのに、今しないといけないの？

コロナ禍で厳しい状況にある市民生活を守りながら、魅力溢れる京都を次世代に引き継ぐために、今、大胆な改革が必要なんです。次号では、なぜこのような状況になったのかを詳しく説明します。

早く知りたい方はホームページへ
京都市 今後の行財政改革 検索

